

グループホーム アート園

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	改正に伴い、新たに「我々は、地域の人々との交流を深め、地域に開かれたアート園となるように努めていきます」と理念を定めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	スタッフがホーム理念を再認識して日々の業務にのぞめるように、毎朝の申し送り時に理念をスタッフ間で唱和するようにしている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	地域の町内会に加入させていただいており、地域との活動をけん引する委員会がある。毎月老人会のサロンに参加させていただき、そこで運営推進委員会にも参加させていただいている民生委員の方と意見交換を行っている。また、家族に対しては家族便りにて活動の内容を報告している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近所にスーパーがあり、入居者の日常的な買い物に利用させていただいている。近所に散歩に出かけたときには挨拶を交わしたり話をしたりしている。また町内会の清掃活動、老人クラブにも参加させていただいて地域の方と触れ合う機会がある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の行事(敬老会、清掃活動、老人クラブ)に参加させていただいている。当園で催しがあるときは声をかけ参加させていただき、交流を図ってる。また、中学生の職場体験として受け入れを行ったり、入居者の方のレクやサークル活動での作品を近所の銀行へ展示させていただいている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて民生員を通じて地域の方へ介護相談に乗ることをお伝えしている。また、町内会の清掃活動へも入居者、スタッフで参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の取り組みを行う委員会がある。委員会には各ユニットよりスタッフが参加しており、取り組みを行うときにはほかのスタッフに意見を聞き参考になっている。決まったことは改善計画書を作成し各フロアにて回覧を呼び掛けるとともに、ミーティングで報告し取り組み内容を全員で認識できるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居状況や、レク、外出状況、サークル活動の内容や前年度の外部評価の結果を報告している。評価の結果にて、課題になったことについて意見を伺い参考にし、又は必要に応じて地域の協力を得てサービスの向上に役立てたり、当園行事でのボランティアや災害時の協力をお願いしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判断に迷う際には、市の担当者の方には電話にて相談することはあるも、行き来する機会はない。		定期的に行き来する機会をもち、情報交換を行いサービス向上に役立てていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	教育委員会があり、定期的に勉強会が開催されている。勉強会のテーマとして「成年後見制度」、「地域福祉権利擁護事業」も取り上げ全スタッフが理解できる機会を設けている。必要に応じて支援できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内で開催する勉強会のテーマで取り上げ、理解するように努め虐待が起こらないようにしている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に事業所のケアに関する方針を伝え、対応可能な範囲を説明し家族の理解を得ている。また面接時に家族のケアに関する要望看取り、医療に関する要望をお聞きし入居前にご本人に施設の見学を勧め、納得して契約していただくように努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者との会話より不満、要望を聞き取りスタッフで改善に努めている。週に一度くらいの頻度で、施設長が各ユニットを訪れ入居者と会話するように努め、意見を聞くようにしている。</p>		<p>外部の苦情受付をしてくださってる民生員が来園された時などに各フロアを訪れていただき利用者の意見を伺ってもらう。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族便りにて病院の受診状況の報告、事業所からの連絡、スタッフの人事異動、利用者の日常生活の様子を写真を添えて発行している。預かり金に関しては、月の使用金の明細、残高を書面にて報告している。また家族の面会時にも同様日常的な生活の様子、病院の受診状況をお伝えし、家族からの要望をお伝えしている。また状況に応じてその都度電話</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方の来園時には、積極的に声をかけ家族からの要望、意見を伺うようにしている。また、園内には家族からの苦情、要望に対する取り組みを行う委員会があり、窓口になる役目を負っている。そして、外部者へ園に対しての意見を伝えられるように運営推進委員会のメンバーである民生員の方に窓口となって頂いている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>週に一度施設長を交えて全ユニットから代表スタッフが参加してのミーティングがある。そこで定期的に意見交換を行えるようになっている。また、管理者も毎日の業務に参加しておりスタッフの意見を聴き、意見交換を行うようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の体調、状況の変化や家族、利用者の要望に応えられるように日中は三人出勤する体制をとり、柔軟に対応できるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者スタッフの馴染みの関係が保たれるように、異動は極力行わないように配慮している。移動する際は、事前に移動先の入居者へ顔合わせのために挨拶に訪れるようにしている。異動後もダメージを和らげるように入居者の生活習慣などを細かく申し送りを行っている。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用に当たっては性別や年齢などの理由に採用対象から排除しないようにしてある。また、スタッフも研修に参加して成果を勉強会で報告し全スタッフが能力向上できる枠組みがある。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修に参加し伝達講習を行い他のスタッフへ周知を図ったり、園内の勉強会でもテーマとして取り上げてスタッフが理解を深められるように努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に園内で勉強会の開催を行う委員会があり、スタッフが勉強する機会をもっている。また、事業者協議会に加入し、そこで開催される研修に参加し向上できるような枠組みを作っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡市の事業者協議会に加入しており、そこで開催される研修に定期的に参加し、他事業所のスタッフと交流する機会がある。そこで意見交換を行いながら、連携を図り当事業所のサービス向上に役立てている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室があり、勤務時間中に気分転換が出来るようになっている。施設長は職員の悩みやストレスを聞くように定期的に面談があり、スタッフ間での親睦の場がある。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長は定期的(1~2/週)にフロアへ訪れ入居者と会話したり、業務を把握するように努めている。また、全スタッフに「認知症実践者研修」が履修できるように順次支援している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当園での面談の前に、施設長が直接ご本人宅や入院中の病院に訪問し、個別にお話を伺うようにしている。その時に当園の生活環境を説明し、ご本人の自宅で使用されている家具等どれくらいの品を引き続き使用できるか、園生活での不安などに対し相談に乗っている。面談時にも本人の悩み、要望、今までの生活環境を聞き理解するように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当園での面談の前に施設長が直接ご本人宅や入院中の病院に訪問し、個別にお話を伺うようにしている。その時に家族の方の不安や悩みを伺いし事前に入居予定のユニットのスタッフ間で検討してから当園での面談を行うようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入園時に本人に必要な支援を見極め、対応できる様に努めている。また、必要に応じて入園前に利用されていた病院、介護事業所からも情報収集し適切な対応が出来るようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご本人、家族に見学に来ていただいた時に食事、お茶など園での生活を体験して頂くように勤めている。		現在昼間の見学という形式をとっているが、ゆくゆくはお泊まりという事を検討し24時間の時間帯の様子を把握してもらい入居していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職業で工具を扱っていられた方には、包丁研ぎや棚を作っていたり、お茶の先生をされていた方にはおやつのお茶をたてていただいたりし、得意にされていたことを園生活でも発揮して頂いている。また、一緒に作業を行いながら教えるをうけている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	園での行事に毎回家族の参加を呼びかけ、入居者、家族、スタッフで楽しむ時間を持てるように支援している。また、趣味で筑前琵琶やお茶をされていた方には家族の面談時に共に琵琶を弾いたり、お茶をたてたりしていただき、共に過ごす時間を持っていただいている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠な家族の方にも園生活を知って頂くために、家族には定期的に「家族便り」を担当により作成し日常の様子、病院受診の内容を記入し写真を添えて郵送している。状況の変化があったらその都度電話で報告している。また、面会時には外出・外泊を勧め、行事には家族の参加を呼びかけを共に過ごす時間を持っていただけるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用されていた美容室を継続して利用できるように支援している。また、家督を継がれ身寄りがない方は盆、正月に墓参りに行けるように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	週に二回全ユニット入居者が集まり体操を行ったり、他に週三回サークル活動を開催し別のユニットの方とも定期的に交流を持てる機会を作っている。その際、会話にスタッフが間に入り橋渡しをして楽しんでいただけるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の病院受診時に、入院し退去された方などのお見舞いに利用者と一緒ににお見舞いに訪れている。		退去後当園の近隣で生活を送られている方には行事の案内を出し、来ていただけるようにし今までの関係が続くようにしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用したり、日々の散歩や入浴時間など個別にゆっくりとした時間の会話などから本人の思いや希望を聞くように努めている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設長は、利用時の面談前に自宅を訪問し、ご本人の生活環境や今までの生活を伺い把握するように努めている。入居後も本人との会話などを通じ解かったことは、センター方式のアセスメントへ随時記入しスタッフ間で把握するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の変化などがあつたら記録へ残し、スタッフ間で共有するようにしている。不安などがある場合個別にお話を聞き解消できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞きケアプランの作成を行っているが、カンファレンスを行う際には家族は同席しておらず伺った家族の意見をスタッフ間で話し合っている。作成後はフロアスタッフ全員に見て貰い再度意見を聞くようにしている。		カンファレンスには、ご本人・家族も同席するような仕組みを作っていけたらと思う。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三か月ごとに、フロアスタッフでカンファレンスを開き評価、見直しを行っています。状態の変化などがあつた場合には状態に応じて作成しています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録ファイルを見開きで、ケアプラン・記録用紙となるようにしており、記録を書く際にケアプランのサービス内容が実践されたか意識して記録できるように心がけている。また、日々の日常の生活の様子を個人記録に残し、スタッフ間で状態の把握をしケアプランの見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携病院以外の受診も援助しており、面会時などにご本人の受診状況を報告している。また、入院時も家族の状況に応じて洗濯物の手洗いなどを行っている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防の方と連携をとり緊急時の対応ができるようにしている。また、民生員を通じ緊急時には地域住人の協力が得られるようになっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じて、訪問理美容に来て利用していただいている。また、対象者は福祉サービスのおむつの申請を行い給付を受けれるように支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括センターとの協働を行った例はない。		今後は運営推進会議に参加してもらい関係作りを行い、困難事例などが発生した時に協働できるようにしていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に家族、本人にかかりつけ医の希望を伺っている。希望がない場合は、園へ訪問診療へ来ていただいている医療機関が2箇所あるのでいずれかを紹介し、同意を得て利用して頂いている。また、緊急時には往診に来ていただいている病院の提携している総合病院があるので、紹介して頂けるような体制がある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に専門医がおり、診察を受けている。また、状態の変化があったらその都度電話で相談しアドバイスを頂けるようになっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護スタッフを配置しており、日常の健康管理が行えるようになっている。また、体調不良時には主治医と電話相談できる体制があり、必要に応じ受診している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、お見舞いに行くようにしておりドクターや看護師から話を伺うようにしている。また家族とも情報交換を行いながら退院への支援ができるように努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	園での終末期に対する指針を作成している。入居の面接時にも家族や本人にも終末期に対する考えを伺うようにしている。当ユニットではターミナルの事例は現在無いが、別のユニットでは事例があり、その際継続的な訪問診療が受けることができるホスピス病棟を有する医療機関との連携体制がある。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	園で終末期ケアが行えるように、ホスピス病棟を有する医療機関との連携体制がある。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住まわれる際には、当園での生活・介護状況を踏まえた情報提供書を作成し提供するようにしている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう声掛けや対応を心掛けている。全体会議などで折に触れ施設長より言葉かけなどの意識の向上を呼び掛けている。また個人の記録は入居者や家族の方の目につかないように配慮している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	意思をうまく伝えられない人は、傾聴するように努め、何を伝えたいかを把握するように努めている。また説明を行う際は相手が納得していただけるまで行い、決定して頂くように努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別、起床・就寝・食事などに時間の制限を設けていない。入居者からの買い物や理容、散歩などの希望があれば柔軟に対応するように努めている。また、園内でサークル活動があるが本人の意思を尊重し参加して頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人が利用されていた馴染みの店を利用したり、望む店を利用できるように外出し支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決めるときには、利用者の好みを聞いたり、時にはベランダ菜園で収穫したものを食材で利用し調理を行っている。利用者で出来る方には、配膳や後片付けを行って頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一日でティータイム時間を三度もうけ、好みの飲み物を伺い飲んでいただき皆さんで楽しんでいただけるようにしている。		現在は喫煙される方はいらっしゃらないが、今後は防火面、他入居者に気を付け楽しんでいただけるような環境作りを行う
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意のない方は時間を定め誘導し尿取りパットへの汚染を防ぎトイレで排泄して頂けるよう取り組んでいる。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に3/週回の入浴となっているが、希望に応じて足浴や入浴出来るようにしている。また、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しんでいただけるように、定期的に入浴剤を変えたり、入浴後の行為がすべて終了し、次の方に入って頂くようにしています。		ゆくゆくは、利用者の希望する時間に入浴できるように支援できるようにしていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠して頂けるように散歩や体操、サークル活動を開催し運動できるようにしている。夜間寝付きの悪い方は、ソファーや自室でゆっくり話し、落ち着いた気分へ導き入眠して頂けるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶や筑前琵琶などを行われていた方には、おやつや行事の時に茶をたてていただいたり、演奏を披露して頂くなど、過去の経験を発揮して頂けるような場面作りができるように心がけている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方に承諾を得て、自分で管理して頂いている方もいる。そうでない方も一緒に買い物に出かけたときには、自分で支払って頂くようにお金を手渡している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、散髪など日常生活で外出する機会を持って頂けるようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の方の希望を聞きながら、春、秋とバスハイクに出かけている。また、遠方を希望される場合には家族の方の協力を得て外出して頂いている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したいと申し出があったら、その都度掛けていただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間の制限は設けていません。家族や知人が面会に来られたら、自室にてお茶を飲みながらゆっくり談話して頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内の勉強会でテーマとして取り上げ、スタッフ間で理解を深め拘束を行わないようにケアが実践できるように取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアで連携をとり、入居者がエレベーターにて自由に各フロアを訪れる事が出来るようになっている。また、玄関は自動ドアになっているが、事務職出勤時の日中は電源を切り手動で開くことが出来るようにしてある。		毎日出来るように取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、入居者の方たちが集まるリビングは必ずスタッフが一人いる状態を心掛け見守りを行うようにしている。また、部屋で過ごされる方もお話をしながら、自室を訪れ所在を確認するようにしている。夜間は一時間に一度の割合で巡回を行うようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具などは棚にて保管しているが、鍵はなく自由に取り出し使用して頂けるようにしている。包丁など危険度が高いもののみ、夜間帯キッチンの高い棚へ保管場所を移し、危険がないように配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時は事故報告書を作成し、各ユニットへ配布、回覧を呼びかけ情報を共有し再発予防に努めている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	園内の勉強会で、看護師職員により実技を踏まえ開催している。		勉強会で定期的にテーマとして取り上げ、全スタッフが緊急時に確実に実践できるようにしていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回利用者含め、消防署立会いのもとに避難訓練を実施している。また、運営推進委員会のメンバーである民生員の方を通じてはたらきかけてもらい、緊急時は地域の方の協力が得られるようになっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の面接時に、家族の方に転倒が起こりうることを説明し理解をえるようにしている。また転倒が起こった場合には、家族の方に電話にて報告し、スタッフ間で対応策を話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い体調を伺っている。また、体調の変化が見られた場合には主治医に電話報告し、指示を仰ぎ場合に依りて病院受診し対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は一人ひとり、ファイルにとじスタッフが用法、副作用、用量が確認できるようにしている。また、一人ひとりの病院受診の内容を記録するノートを設け処方の変更があった場合、変更理由、内容を確認できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、散歩や体操を行い体を動かしていただけるように努めている。その他、朝食後に牛乳やヨーグルトなどを食べていただき自然な排便が出来るように努めています。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、介助が必要な方には介助して行って頂いている。夜間は義歯を洗浄液にて消毒している。		声掛けるも、朝、夕だけでよいと行われぬ方もいらっしゃるため、歯磨きの理解をして頂き毎食後行って頂けるようにしていく。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は主食副食に分けてチェック表に記入し確認している。水分は、毎食事、朝、昼、夕のティータイムの時に提供し摂取量をチェック表に記入して確認している。また本人の嗜好や栄養バランスを考慮し献立を決めて提供するように支援している。また、嚥下や咀嚼の悪い方には状態に応じて、お粥や水分にとろみをつけて提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会を開催し、マニュアルを作成し各フロアに整備しスタッフが必要に応じて読めるようにしている。またインフルエンザに関しては入居者、スタッフ全員が予防接種を受けるようにしている。入居者の方にも食事前には手の消毒を行って食卓について頂いている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防を勉強会のテーマとして取り上げ、理解するように努めている。またまな板も食材に応じて使い分けており、布きんと合わせて毎晩漂白消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはベンチを設置し、入居者の方が散歩後や花の水やり後休憩していただいたりしてます。建物周囲には季節の花を植え入居者や地域の方も前を通られた時に楽しんでいただけるようにし、親しみやすい雰囲気作りを心がけてます。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、トイレなどには花や観葉植物を置いたり、壁には季節を意識した掲示物を貼るように心がけています。玄関には入居者の方が作成された作品を月ごとに展示し面会に来られた方、入居者の外出時に見ていただけるようにしています。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とは別にテレビを取り囲むようにソファを設置し、皆さんで集まってお茶や会話を楽しんでいただけるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、自宅で使い慣れたものを持ってきて使用していただき、安心して生活して頂けるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の時に窓を開け換気するようにしている。また、各居室、フロア、廊下に温度計を設置し外気温と差がないように温度調節を行うように努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴槽、トイレ、自室の洗面所など要所に手すりを設置し、流し台も利用者の方が使いやすい高さのものを使用しています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入居者の居室には、暖簾を掛け自室の目印になるようにしている。また、トイレのドアにも案内をかけわかりやすく表示している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや玄関周りに花や野菜を植え、入居者の方と水やりをおこなったり、屋上に洗濯物干しを一緒に行ったりしています。		

グループホーム アート園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム アート園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当園は、隣に公園、スーパー、老人クラブの寄り合い所と利用者の生活には適した環境にあります。その環境の中で、自然と地域に溶け込みながら生活を送って頂けるよう支援することを心がけています。そして、利用者の方から気軽に相談されたり、お願いされたり、またスタッフからも同じように困ったときには相談出来るような関係作りを目指していけたらと思っています。今後も全スタッフ自己の向上に努め、利用者の方たちが人生の道を歩む時に困られたら、スタッフが杖のような存在になって、入居者の方達またその家族の方達を確実にそっと支えていけたらと思います。